

8. レチノイド retinoid

レチノイドはビタミン A およびその誘導体の総称で、上皮組織の増殖および分化を調節する作用がある。この作用はビタミン A の中間代謝物であるレチノイン酸で強い。現在日本ではエトレチナート (etretinate, チガソン®) とベキサロテン (bexarotene, タルグレチン®) が認可されており、前者は角化症に、後者は皮膚 T 細胞リンパ腫に用いられる。

ビタミン A には角層の構造をつくる硫酸コレステロールを減少させる作用があり、投与によって角層の脱落が促進される。これらの作用によりさまざまな角化異常症 (乾癬, 魚鱗癬, 掌蹠角化症, Darier 病など) に有効である。また, レチノイド X 受容体を介して細胞周期を停止させ, 細胞の分化や細胞死を誘導する。レチノイドには重要な副作用 (催奇形性や骨発育障害) があるため, 生殖年齢の患者に使用する際には規定期間の避妊が必須である。さらに, 骨端線の早期閉鎖を生じうるため, 小児へは慎重に投与する必要がある。そのほかに表皮の脱落, 口唇炎, 脱毛, 爪囲炎, 肝機能障害, 脂質代謝異常, 甲状腺機能低下症などの副作用も認める。

9. DDS 4,4'-diamino-diphenyl-sulfone

ジアフェニルスルホン (diaphenylsulfone, レクチゾール®) ないしダプソン (dapsone) ともいう。葉酸合成を阻害するサルファ剤の一種であり, もともとはハンセン病に対して用いられていた。後に, 好中球浸潤を主体とする種々の炎症性皮膚疾患に効果があることがわかり, 皮膚科領域では ^{デュエリン^g} Duhring 瘡疹状皮膚炎やその他の自己免疫性水疱症, 持久性隆起性紅斑, 角層下膿疱症, 血管炎, 顔面肉芽腫, 色素性痒疹などの治療に用いられている。副作用として, 溶血性貧血やメトヘモグロビン血症, 白血球減少, 肝および腎機能障害などがみられることがあるため, 定期的な血液検査が必要である。まれではあるが, 発疹や発熱, 肝機能障害などを呈する DIHS (10 章 p.158 参照) を生じることがあり, とくに DDS 症候群として知られている。

10. ヒドロキシクロロキン hydroxychloroquine

もともと抗マラリア薬として使用されていたが, SLE や Sjögren 症候群に有効であることが判明し, 国際的に広く用いられている。形質細胞様樹状細胞に発現する TLR9 を抑制することで, 免疫複合体を介した炎症反応を減弱させる。網膜障害 (クロロキン網膜症) は最も注意すべき副作用であり, 定

ドラッグリポジショニング
(drug repositioning)

MEMO 

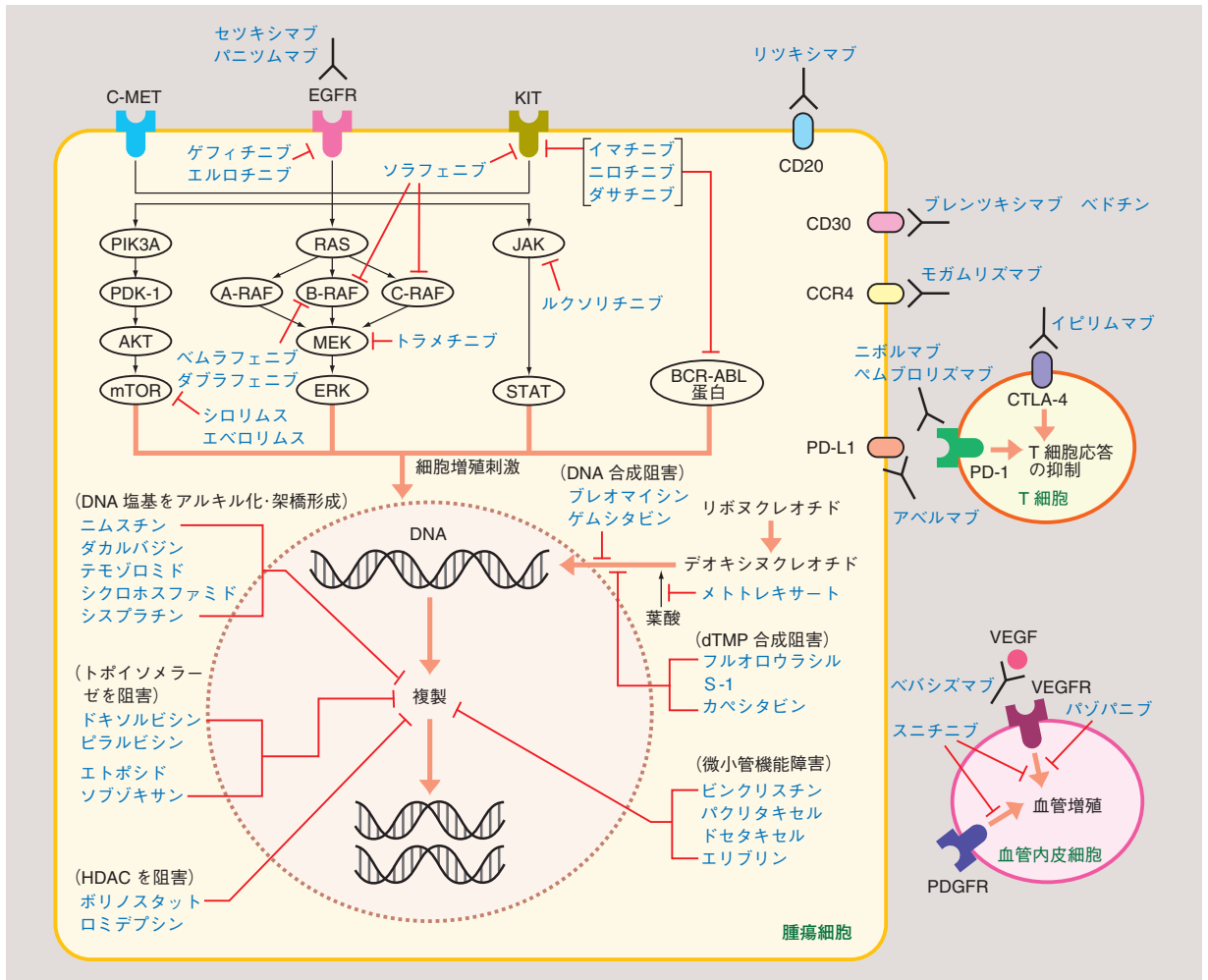


図 6.6 皮膚科に関連する主な抗悪性腫瘍薬と作用部位
 (国立がん研究センター内科レジデント編. がん診療レジデントマニュアル 第7版. 医学書院; 2016 を参考に作成)

期的な眼科フォローが必須である。また、乾癬やポルフィリン症、グルコース-6-リン酸デヒドロゲナーゼ (G6PD) 欠損症では、ヒドロキシクロロキンにより病態が悪化することがある。

11. 抗悪性腫瘍薬 anticancer agent ★

皮膚科領域では、悪性黒色腫、有棘細胞癌、(乳房外) Paget 病、皮膚リンパ腫などに対し、病期などによって抗悪性腫瘍薬による治療を行うことがある。現在、さまざまな系統の抗悪性腫瘍薬が使用されており (図 6.6)、作用機序の異なる薬剤を組み合わせ、耐性化と副作用を減らす多剤併用化学療法 (combination chemotherapy) も行われる。皮膚科では悪性リンパ腫に対して CHOP 療法が行われることがある。DAVferon 療

表 6.13 皮膚科で用いられるその他の薬剤

| | |
|---|--|
| 6 | |
|---|--|

法は、以前日本で悪性黒色腫に対して行われていた。

12. ビタミン製剤 vitamin

皮膚科疾患でビタミン欠乏が原因とされているものに、口角炎（ビタミン B₂ 欠乏，アリポフラビノーシス），ペラグラ（ナイアシン欠乏），ピオチン欠乏症（ピオチン：ビタミン H，ビタミン B₇）などがある。これらの疾患を治療するために不足ビタミンの補充療法が行われる。また、肝斑や炎症後色素沈着，紫斑などに対してビタミン C が投与される。

13. 漢方薬 Chinese herbal medicine

各種の生薬を組み合わせた医療用漢方製剤が多数存在する。皮膚科では、尋常性痤瘡や皮膚瘙癢症，蕁麻疹やウイルス性疣贅などに対して用いられる。

14. その他 other agents

インターフェロン，NSAIDs，ヨウ化カリウム，亜鉛製剤，プロスタグランジンなどが皮膚科でも用いられる（表 6.13）。